



放射線科部長

宮下 次廣 TSUGUHIRO MIYASITA

放射線診療の目的は、主治医のお手伝いです。血液検査などと異なるのは、実施した検査の解釈（診断）をレポートにして主治医に伝えるという一手間を加える点です。つまり、放射線科医師の重要な業務は読影（放射線技師が撮影した画像を読んで診断すること）です。

従来、読影は、大学病院等からの日替わりの非常勤医師により行われていましたが、今回（2016年4月）私が常勤医として着任し、手がけたことが幾つかあります。

◆画像診断管理の更なる徹底

画像診断の質と安全を担保し、かつ迅速に主治医に読影結果を報告するためには常勤専門医が不可欠です。施設基準を整え、特掲診療科の「画像診断管理加算1」を8月に、「画像診断管理加算2」を12月に取得しました。

◆胸部単純撮影の全例読影

これは上記の基準条件ではありませんが、専門領域に偏らない視点で、予期されない所見をも漏らさず読影します。ダブルチェックの意味で重要な仕事と考えます。

◆双方向の情報共有

主治医が求めている情報に応え得る読影レポートを作成すること、それが患者さんにとって最も重要です。そのためには、主治医の先生方からの臨床情報と共に、お届けしたレポートに対するご意見をフィードバックしていただくことも重要です。その情報交換の機会をシステムとして広げたいと思っています。

喫緊に必要と思われ開始した以上の取組みは、患者さんの安全、安心に直結すると確信しています。

幸いなことに、放射線科は技師長以下、優秀かつ向上心に満ちた診療放射線技師が揃っています。今後も、日々、新たな進歩を目指して、精進してゆきたいと思えます。

《職歴等》

前職：日本医科大学教授、同付属病院放射線治療科部長

専門分野：画像診断全般（特に頭頸部）、放射線腫瘍学

所属学会：日本医学放射線学会（前代議員）

日本放射線腫瘍学会（前代議員）

日本気管食道科学会（評議員）、他